The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	急性期病院における褥瘡発生患者の検査データの解析と検査データによる発生予測の試み
Author(s)	畑中, 徳子
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/49023
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【14】

氏　　名	畑　中　徳　子（はた　なか　のり　こ）
博士の専攻分野の名称	博　士（保健学）
学　位　記　番　号	第　２１８９７　号
学位授与年月日	平成 20 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当 医学系研究科保健学専攻
学　位　論　文　名	**急性期病院における褥瘡発生患者の検査データの解析と検査データによる発生予測の試み**
論文審査委員	（主査） 教　授　岩谷　良則 （副査） 教　授　松浦　成昭　　教　授　山村　　卓

論文内容の要旨

褥瘡は栄養状態の低下などによる脆弱化した組織に、圧迫やズレなどの外力、また感染等が加わり、壊死を起こす疾患である。一度発生すると難治性で長い経過をとるため、治療する前に予防することが大切であるといわれている。褥瘡発生のリスクを評価し、リスクの高い患者を重点的にケアすることは、褥瘡発生の予防に効果を発揮する。しかし褥瘡発生のリスク評価に用いられる Braden Scale の点数が高い患者においても、褥瘡発生が見られることはよく経験し、満足のいくリスク予測方法がないのが現状である。そこでわれわれは、検査データを使った褥瘡の発生のリスクを予測が可能であるか、褥瘡発生患者の生化学データを多変量解析し、褥瘡発生のリスク予測指標の作成を検討した。

対象は呼吸器疾患患者 149 例について、入院時より 3 ケ月間褥瘡発生の有無を観察した。褥瘡発生の有無と入院時の生化学検査データ（12 項目）および Braden Scale スコアを用いて、Cox 回帰分析を行った。

その結果、観察期間中に褥瘡発生を認めたのは 38 例であった。Cox 回帰分析の結果では褥瘡発生予測に有用な項目として Braden Scale スコアは選択されず、ヘモグロビン、CRP、アルブミン、年齢、および性別が最も有効な組み合わせとなった。この組み合わせにて多重ロジスティック解析を行い、褥瘡発生予測式を作成した。これより求めた予測値は褥瘡発生に対し感度 0.73 および特異度 0.70 を示し、Braden Scale スコアやヘモグロビン、CRP、およびアルブミンをそれぞれ単独で用いた場合よりも高値を示した。

今回、多変量解析を用いて日常よく使用する生化学データより褥瘡発生予測値を作成した。この褥瘡発生予測値は、従来の単一データの予測指標や看護師の主観的な観察に基づく褥瘡発生予測よりもはるかに有効で、褥瘡予防に効果を発揮することが期待される。今後臨床にてデータを蓄積し、その効果を評価する必要があると考える。

論文審査の結果の要旨

褥瘡は多様な背景の患者に起こる比較的頻度の高い病態であり、健康転帰の悪化および医療費の増加をもたらす。日本は高齢化社会の時代を迎えており、寝たきり高齢者においては褥瘡発生の頻度はより高くなるため、今後ますま

す褥瘡への有効な対策が重要となってくる。しかし現在臨床で用いられている褥瘡発生予測の方法は、満足のいくものではなく、効率の良い褥瘡発生予防の対策をとるためには、的確な褥瘡発生予測は欠かせない。

本研究においては、一般的によく実施される生化学検査項目を用い、呼吸器疾患患者を対象に検査データによる褥瘡発生のリスク予測が可能であるかを検討した。これまでのリスク予測因子算出の手法とおおきく異なる点は、統計処理に多変量解析を用いたことである。多変量解析を用いることでそれまでの単項目での評価と異なり、複数の項目を組み合わせた予測指標を可能にし、既存の単一項目や看護師の主観による予測指標に比べ、褥瘡発生者を識別する感度、特異度は有意に上昇させた。新しい褥瘡発生予測指標を用いた褥瘡予防対策により、発生率の減少をさせることが期待でき、さらに看護師の褥瘡対策にかかる労力の減少にも貢献が期待できる。また今回は呼吸器疾患の患者を対象としたが、多変量解析を用いた褥瘡発生予測指標の算出方法は、今後様々な病態患者への応用が可能と思われ、超高齢化社会における褥瘡対策の一助となる可能性がある。

以上の観点より、本研究は博士（保健学）の学位授与に値するものと考えられる。